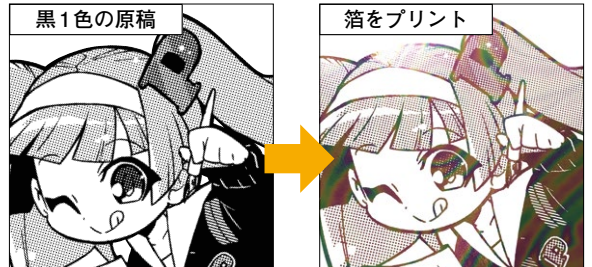
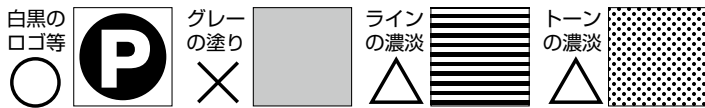


## 仕様 ※表の上の巻頭に挿入

オリジナル箔表紙は、金属のごく薄いフィルムを定着させて、金属フィルムのある部分・ない部分を作ることによって絵柄を表現します。

インクのように濃淡で表現できないので、絵柄は白黒の2階調で表現する必要があります。

また、フィルムの材質上、ごく細い線の部分だけフィルムを定着させたり、緻密な隙間を抜くことには限界があります。細すぎる線は剥げてしまったり、一般的な細かい密度のトーンの点はずぶれてしまいますのでご注意ください。



## 箔データの作り方

■表紙データは**黒1色(K100%)**で作成してください。  
※グレースケールモードで作成する場合は**濃度が0%かK100%の状態**になるようご注意ください。グレーの濃淡やグラデーション、ぼかしを箔で表現することはできません。

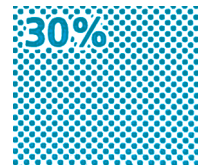
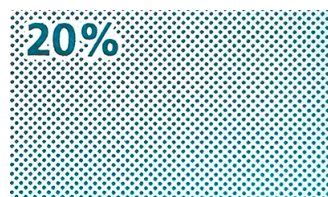
■**細すぎる線や、小さな文字は再現できない**可能性があります。  
■タチキリや背にデザインがかかるもの、面積の大きいベタは、キズがついたり剥がれる場合があります。

■箔を全面に定着させる工程上、白地となる部分にも多少の箔の粒子が乗ることがあります。



## 【原稿作成の注意】

■トーンの絵柄の線数は40線程度までを推奨します。  
(※ただし細密な絵柄の再現性は、箔フィルムの色や箔部分の面積、用紙の種類にも影響を受けるため一概にはいえません)。また、50%を超えると白の隙間の方が少ないためつぶれやすくなります。



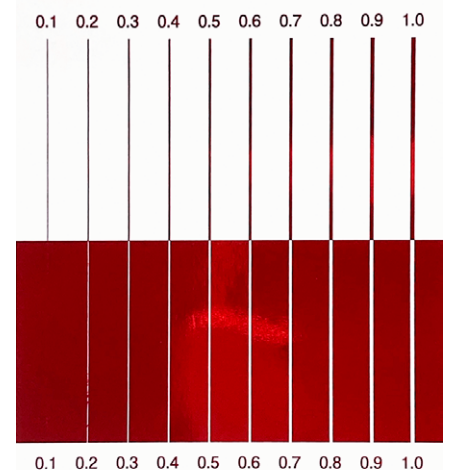
←40線/30%のトーン。  
トーンの細かさや濃度はこれくらいまでが諸条件に影響されず良好に再現できます。

←50線のトーン。  
白い部分が少なくなってくる60%では点の隙間がつぶれてきており、70%以上ではべったりとつぶれてしまいます。同じ50線のトーンでも、20%程度の密度ではほぼ問題なく表現されています。

■箔の中白抜きの表現が不得手です。画像のように白地の上では0.2mm程度の細かい線にも箔が転写できていますが、箔の中の白線は抜けきれずにつぶれてしまっています。白抜きの線ははっきり太めにしてください。

■文字の大きさは8pt以上を推奨します。ただし、明朝系の細い文字や箔の中の小さな白抜き文字は表現が困難ですので、なるべく太くはっきりしたフォントを使用してください。

■元の大きさでは問題なく表現できるデザインでも、縮小した場合に線幅やデザインの隙間が細くなりすぎてしまうことがあります。デザイン素材等を利用して原稿を作成する際はご注意ください。



### 【ホログラム箔原稿作成の注意】

■ホログラム箔は輝きが強く、特に柄がはっきりしている【クリスタル】【スパークル】では、箔の部分に白抜きの文字やデザインは視認しにくくなります。白抜きとなる部分はしっかり太く描画することを推奨します。

また、デザインがホログラム柄より小さい面積だと効果的に見えませんのでご注意ください。

